

## 保育に関する実習日誌の形式

## Forms of Diary Writing for Pre-Service Practical Training in Childcare

開 仁 志  
HIRAKI Hitoshi

## I 目的

保育に関する実習において、実習生を悩ませているものの一つが実習日誌であろう。実習日誌における悩みについては様々な要因が考えられるが、筆者が行った調査では、保育者養成校において指導された実習日誌の形式と実習配属先で要求される実習日誌の形式が違った場合にとまどいを感じる例が見られた<sup>i</sup>。

石井ら(1999)は、実習日誌の形式について、(1)実習園指定形式枠と(2)縦割り形式枠を指摘している。ここでの「実習園指定形式枠」は、幼稚園において担任が毎日記録する日誌の形式であり、項目で仕切ることとはせず、一日の流れと観察の感想を中心に書くものである。このため、全体の流れを把握することはできるが、幼児の心に沿う記録を書くことは困難であるとされた。「縦割り形式枠」は、項目ごとに書く内容を分けるものである。その中には、①時間の流れに沿って書くものと、②エピソードスタイルのものがあるとしている。①については、一斉活動の園に向いているが、自由な遊びの様子や一人一人の動きや言葉を記録することは困難であるとされている。②については、個々の幼児の遊びや心の動きに沿い、幼児理解には適しているが全体の見通しが立たない点が指摘されている<sup>ii</sup>。

小山(2007)は、「エピソード記録型」実習日誌の効用と課題について言及している。一日の流れを追って記録する様式を「時系列式」とし、この形式では保育の流れを理解することは容易であっても、一人一人の子どもを捉える視点が育ちがたいことを指摘している。「時系列式」から「エピソード記録型」の形式に実習日誌を変えたところ、幼児理解と保育者の援助理解につながったとしている。しかし、保育を見る視点を磨く以前に、書く能力を解決しないとその利点は生かされないとしている<sup>iii</sup>。

猿田(2008)は、勤務校の1年次に実施する実習での日誌形式の分析をしており、実際の学生調査から見えてきた問題点を指摘している。猿田の研究において注目したい点は、(1)実習段階に応じて形式を変えていること。(2)学生が自分で書いた実習日誌の記述内容に関して振り返りをしていることである。実習段階としては、①オリエンテーション時に使う形式、②自由記述形式、③保育の一日の流れについて書く形式と分けている。「自由記述形式」では、学生が初めての实習だからこそ新鮮な視点で子どもを感じ取ろうとする点のよさはありつつ、保育者の援助や実習生としてのめあてに注目して深く保育をとらえることは難しい点を指摘している。だが、学生が自分の実習日誌を振り返ることで成長を感じていることから、実習段階に適した実習日誌形式の可能性が示唆されていると考える。また、他養成校との比較を試み、改善につなげようとする視点には学ぶところが多い<sup>iv</sup>。

以上のように、(1)実習日誌には様々な形式があること、(2)形式ごとに特徴がありメリットデメリットがあること、(3)実習段階ごとに適した形式がある可能性があることが明らかになってきている。しかし、実習日誌形式の構造的な分類、形式ごとの特徴の分析、実習段階ごとに適した形式についての分析は、まだなされていない部分が多いと感じる。

本研究では、現在使用されていると考えられる実習日誌の形式を構造的に分類し、その特徴を実習段階とも関連させながら分析・考察することを試みたい。そのことを通して、保育者養成校と実習現場が実習日誌の特徴を共通理解してよりよい実習を行うことにつながることを目的とする。

## II 方法

保育者養成校において保育に関する実習指導で使用されることが予想される教科書に掲載されている実習日誌の形式について分析・考察する。

## III 結果及び考察

### 1. 実習日誌の形式

教科書によって掲載している実習日誌の形式は異なる。筆者は、実習日誌の形式の違いに着目し6つの型に分類した。以下に型ごとの特徴の分析・考察を試みる。

#### (1)流れ記録型

1日の流れを項目に分けて書く型である。そのことで、時間に沿った子どもの活動(姿)、環境の構成、保育者の援助・配慮、実習生の動き・気づき等が一目でわかる特徴があると考えられる。

前述した「時系列式」「保育の一日の流れを書く形式」に対応しているものと言える。この「流れ記録型」を掲載している教科書は多いことから、実習日誌の形式として普及していることが推測される。

この型を使うメリットは、観察記録に適していることである。観察記録では、担任保育者の保育のねらいと環境の構成・援助を理解することが大切になるが、項目が細かく分かれていることで視点が明確になり、短く簡潔な言葉で書くことから文章を書くことが比較的容易であると考えられる。また、指導案と同じような形式で書くので、記録したことをもとにしながらかくことができる。

しかし、デメリットとしては、子どもの活動と保育者の援助・配慮の項目が分かれているため、保育者と子どものやりとりを具体的に書くことが難しいことがある。また、短く簡潔な言葉で書くため、文章が表面的になりやすい傾向があると考えられる。

表1 流れ記録型

月 日 ( ) 曜日		天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習のめあて			今日の主な活動		
今日の保育のねらい			今日の保育の内容		
時間	環境の構成	子どもの活動(姿)	保育者の援助・配慮	実習生の動き・気付き	
9:00					
10:00					
16:00					
今日の反省と明日への課題			指導者の所感		

## (2)指導案情報獲得型

指導案を書く場合には、子ども理解を深め、教材研究を進めることが必要になる。そのような指導案に必要な情報を獲得する時に有用と考えられるのが、「指導案情報獲得型」である。この型はさらに、2つの型に分けられる。

## ①視点ごとに記録するもの

この型の特徴は、指導案を書くときに必要な情報を視点とすることで、何を記録するか明確になることである。

従って、メリットとしては、指導案に必要な情報を網羅できることである。他の実習日誌では、基本的に目の前で起こったことを記録していくため、指導案に必要な情報が必ずしも記録されるとは限らないという課題がある。この型を使うことで必要な情報の抜けや不足が少なくなることが考えられる。また、指導案を書く場合に、記憶を頼りに書くのではなく記録をもとに書くことができ、根拠がある保育者の援助につながると考えられる。

しかし、デメリットとしては、指導案に必要な情報を得ることが目的なため、視点以外の部分は記録されないことがある。指導案に直接結び付くと考えられるような目に見えやすい子どもの行動を記録しがちになり、子どもの表情・しぐさなどをありのままとらえ、後からその意味を振り返るといったことには困難が生じると考える。

表2 指導案情報獲得型(指導案を書く時に必要な情報を視点ごとに記録するもの)

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習のめあて			
視点	記録(子どもの姿)	考察	
<イメージ・興味・関心>			
<先行経験>			
<人間関係>			
今日の反省と明日への課題		指導者の所感	

②個々の姿を把握するもの

指導案を書くときには、子ども一人一人の個性や興味・関心などの情報をとらえ、必要な援助を考えることが求められる。この型は、指導案に必要な情報を視点として、子ども一人一人の姿を記録していくものになる。

メリットは、子ども一人一人の記録が残るため、おとなしい子や目立たない子などの記録が無いなどの抜けが無く、個人差をとらえられることである。すると、一般的に考えられる保育者の援助ではなく、A児に対しての援助などといった対象をしぼった援助になる。そのことで、根拠のある援助につながるのではないかと考える。

しかし、デメリットとしては、指導案に関係しない視点は抜けがちになることが考えられる。視点に対する個人差はとらえられるが、その子をまるごととらえ個性を把握することは困難と言えよう。例えば、体力的なことを視点とした場合、A児は体力的な課題を持つとしか記録されず、他のよき（友達に優しい、絵を描くのは好き）等は記録されないことになる。

表3 指導案情報獲得型（指導案を書く時に必要な個々の姿を把握するもの）

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名
今日の実習のめあて		
子どもの氏名	記録（子どもの姿）	考察
A・K（女）	<体方面> <意欲面>	
D・I（男）	<体方面> <意欲面>	
Y・R（男）	<体方面> <意欲面>	
今日の反省と明日への課題		指導者の所感

(3)活動まとめ型

「活動まとめ型」は、全日実習に向けて必要な情報を獲得することを目的として書くものである。全日実習では、1日の流れを全て把握し、活動ごとの子どもの姿、必要な環境の構成や保育者の援助を理解していることが求められる。この型では、実習生が今までとらえきれなかった部分を網羅することができるという特徴がある。「活動まとめ型」には、さらに、以下の2分類がある。

①時間に沿って必要事項や手順を確認するもの

1日の生活の流れを時間に沿った活動ごとに区切って線を引き、短く簡潔な言葉で書く型である。区切ることによって活動を一つのまとめとしてとらえることができる。

メリットとしては、全日実習に向けて実習生が理解していない活動を自覚することができる点である。活動ごとの区切りが無い型では、登園部分は詳しく記録してあるが、片づけ部分に関し

ては記録が全くなされていないなどのアンバランスが生じる場合がある。この型を使用すると、活動ごとに記録をすることが求められることから、全ての活動をバランスよくとらえる視点を得ることができるのではないかと考える。また、活動ごとに指導者のコメントを書くことで、実習生が抜け落ちがちな視点についても指導ができるというメリットがある。

デメリットとしては、全ての活動をバランスよく書いていくと膨大や記録になるということ、指導者のコメントを書くことが負担になることが考えられる。特に抜け落ちがちな活動にしぼって記録するなどの工夫が必要であろう。

表4 活動まとめ型(時間に沿って必要事項や手順を確認するもの)

月	日( )	天候	歳児	名	組	欠席	名
今日の実習のめあて							
子どもの活動・姿		環境の構成・保育者の援助			指導者の所感		
<登園時>8:30~9:00							
<自由な遊び>9:00~10:30							
<片付け>10:30~11:00							
<集まり>11:00~12:00							
<給食>12:00~13:00							
<自由な遊び>13:00~14:00							
<降園時>14:00~14:30							
今日の反省と明日への課題							

#### ②自由な遊びの時間で子どもの姿の特徴をとらえるもの

自由な遊びの時間では、同時間に様々な場所で様々な活動をする。先の(3)①の型は、子どもが時間に沿って同じ活動をする場合の記録には向いているが、同時間帯に様々な活動を記録することには向いていない。その課題を克服するのが、活動まとめを遊びごとに区分して、子どもの姿を記録する(3)②型である。

この型のメリットは、自由な遊びの時間の子どもの活動場所をおおまかに保育室、遊戯室、園庭と分けて空間的に把握できることである。このことで、どこでどのような遊びが行われているか、遊び同士がどうつながっていくかなどの予想が可能になり、保育者の位置などを考える手がかりになると考える。

デメリットとしては、自由な遊びの時間に限定するため、1日の流れを把握できないことであると考える。

表5 活動まとめ型 (自由な遊びの時間で子どもの姿の特徴をとらえるもの)

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習生のめあて			
保育室			
ままごと遊び	廃材工作	お絵描き	
<参加者>	<参加者>	<参加者>	
<特徴>	<特徴>	<特徴>	
<課題>	<課題>	<課題>	
遊戯室			
大型積木	巧技台でサーキット	大縄跳び	
<参加者>	<参加者>	<参加者>	
<特徴>	<特徴>	<特徴>	
		<課題>	
園庭			
砂場遊び	鬼ごっこ	虫探し	
<参加者>	<参加者>	<参加者>	
<特徴>	<特徴>	<特徴>	
		<課題>	
今日の反省と明日への課題		指導者の所感	

(4)エピソード記録型

(1)~(3)の型では、1日の流れを把握したり指導案に必要な情報を得たりすることを目的とし、短く簡潔に書いていくことが特徴だが、(4)(5)の「エピソード」型では、子どもや保育者の姿をありのまま総合的にとらえ、できるだけ具体的に書いていくことが求められる。

さらに、「エピソード」型は、「事実」と「考察」を分けて書くかで分類がなされる。「事実」と「考察」を分けて書き、客観性を求めたものが「エピソード記録型」になる。

この型は、1日の流れを、活動のまとめごとと一つのエピソードとしてとらえ、子どもや保育者のやりとりを踏まえながら書く。事実(客観性)の部分と考察(主観性)の部分に分けて書くことで、実習生の考察の根拠(理由)が明確になることが特徴である。また、事実の部分では、子どものつぶやき、表情、しぐさ、目線、会話など客観的事実をありのまま克明に記録するので、言葉に出ない子どもの内面までとらえて考察することにつながるのではないかと考える。

デメリットとしては、活動ごとにエピソードを見つけることができない場合があることであろう。例えば、毎日の流れがデイリープログラムとして決まっている場面では、エピソードを見つけるにくいことが考えられる。また、事実の部分の文章と考察の部分の文章の量がアンバランスになると、対応する箇所を探すことが困難なことがある。

表6 エピソード記録型

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習のめあて			
時間	1日の流れ	記録(子どもの活動・保育者の援助等)	考察
9:00			
10:00			
11:00			
12:00			
14:30			
今日の反省と明日への課題		指導者の所感	

## (5)エピソード記述型

「エピソード記述型」では、1日の中で特に心に残ったエピソードや、実習のめあてに関係することを中心に、克明に書く。「エピソード記録型」と違う点は、事実と考察の部分を分けずに書き、実習生が子どもの姿をどう読み取り、どんな気持ちで関わったのか、主観(子ども観、保育観)を交えながら書くことが特徴である。

メリットとしては、実習生の関わりの背景が見えることであると考えられる。保育実践が行われた時の状況、実習生自身の意図など目に見えない部分は、外から見た客観的事実の記録ではとらえきれない面がある。主観を交えながら書くことで、当事者の思いを読み手に伝えることができる。また、実習生にとっては、事実と考察を分けなくてよいことから、素直に思いを書くことができやすい面があると考えられる。

しかし、デメリットとしては、1日の流れを記録することはできないこと、エピソードに選ぶ場面を見つけることが困難なことが考えられる。

表7 エピソード記述型

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習のめあて			
記録			
<〇の場面>			
エピソードの考察		指導者の所感	

## (6)指導案振り返り型

「指導案振り返り型」は、指導案をもとに実践した後、実習生自身の保育実践を振り返って書くものである。指導案の横に考察部分がついているのが特徴である。指導案で予定していた流れと違った部分に一重線を引き、実際の流れを書き込み、考察、反省会での学びなどを書く。

メリットとしては、指導案で予定していた計画と実際の実践の流れの違いを明らかにして、子

どもの実態に合った計画や実践の在り方を考え、次の実践に生かすことができると考えられることである。また、指導案に考察がついているので、指導案と実習日誌を兼用させることも可能と言えよう。

デメリットは、保育者と子どものやりとりが書きにくいことや文章が表面的になりやすい点は(1)～(4)の型と同様であり、さらに、訂正の書き込みが多くなると読みにくいという点である。

表8 指導案振り返りタイプ (指導案をもとに実践した後、振り返って書く)

月 日 ( ) 曜日		天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の保育のねらい			今日の保育の内容		
時間	環境の構成	子どもの活動	保育者の援助・配慮	考察	
10:00	・陣地がわかる	○サッカーをする。	・チームが決まったら勝		
10:30	ように白線	○サッカーのルールを話	つための作戦を考える		
11:10	を引く。	し合う。	ように促す。		
11:30	・チームの色帽 子を用意する。		・チームの人数に差があり、言いあいになったため、子どもと話し合う。		
カンファレンス (反省会) から学んだこと					

## 2. 実習段階と実習日誌の形式

### (1) 観察実習

観察実習では、参加実習に向け、客観的に担任保育者と子どものかかわりを見て学ぶことが求められる。この段階では、「1日の流れを知る」「子どもの姿を知る」「担任保育者のねらい・援助を知る」などといった実習のめあてが考えられるであろう。

そのめあてを達成するためには、1日の流れを記録することができるものであり、担任保育者について書く項目が分かれているほうが書きやすいと考える。その条件を満たすものとしては、「流れ記録型」が挙げられるだろう。

しかし、一方で観察実習の次には参加実習の段階があることを踏まえる必要がある。「流れ記録型」では、客観的に動きを記録していくことは容易だが、子どもと担任保育者のやりとりを書くことはできず、また、行動の背景まで書くことは困難である。参加実習の段階では、行動の背景まで思いを至らせ、自分だったらどうするかという視点が必要であり、その視点を得るためには、「エピソード記録型」が適していると考えられる。事実と考察を分けて書くことで、客観性を保ちつつ、子どもの姿や保育者の援助の背景にまで思いを至らせて書くことになるからである。

### (2) 参加実習

参加実習では、指導実習に向け、担任保育者の指導のもと、自分なりのめあてをもち、具体的に子どもとどうかかわりたいのかという行動目標を持つことが求められる。



そのためには、実習生自身が子どもとやりとりをする中で得た学びを書くことができる型が適していると考えられる。そのようなやりとりを書きやすいのは、エピソード型になる。エピソード記録型で1日の流れを踏まえて書くことに慣れた後、一番心に残ったことや実習のめあてに関連したことを厳選して書くエピソード記述型の実習日誌を使用するとよいのではないかと考える。エピソード記述型を先に書くことになると、どの場面をエピソードとして取り上げるのか選ぶことが困難なためである。

また、次の段階の指導実習では指導案を書くことが求められることから、指導案に必要な情報を得ることが必要になる。適しているのは、指導案情報獲得型であると考えられる。

### (3)指導実習

指導実習では、指導案をもとにした実習をすることになる。指導実習では、部分実習(1日の中で1部分の活動だけを指導する)、半日実習、全日実習と担当部分が増えていくことになる。部分実習に向けては指導案情報獲得型が適しているが、半日実習、全日実習に向けては、不足する部分が出てくる。全日実習では、1日の流れを全て把握し、活動ごとの子どもの姿、必要な環境の構成や保育者の援助を理解していることが求められるからである。

その場合には、1日の流れを時系列に沿って活動をまとまりごとにとらえたり、自由な遊びの時間に空間的に子どもの姿を把握したりすることができる活動まとまり型を使うことが適しているだろう。

さらに、指導案をもとに指導実習を行った後に振り返る場面では、指導案振り返り型を使うことで、計画と実践の違いを感じることができ、次の保育実践に生かすことができるのではないかと考える。

## IV まとめ

本研究では、実習日誌の形式を構造的に分類し、その特徴を実習段階とも関連させながら分析・考察することを試みた。その結果を要約すると、以下の表のようになる。

表9 実習段階による指導案の型

実習段階 \ 実習日誌の目的	指導案に向けての情報を得る	子どもや保育者の姿をありのまま総合的にとらえる
観察実習	流れ記録型	エピソード記録型
参加実習	指導案情報獲得型	
指導実習	活動まとまり型	エピソード記述型
	指導案振り返り型	

ここでは、実習段階による使いやすさから型を分けたが、目的に合わせて選ぶとよいと考える。そのことで、保育者養成校と実習現場が実習日誌の特徴を共通理解してよりよい実習を行うことにつながることを願っている。

## 引用文献

---

- i 開仁志 (2007) 「保育実習の効果的な指導の在り方」富山短期大学紀要 42. Pp17-30。
- ii 石井叔子・原口純子(1999)「保育者を育てる～実習日誌の指導について～」日本保育学会大会研究論文集 52. Pp646-647。
- iii 小山祥子(2007)「幼児理解と保育者の援助理解を深める保育記録に関する研究(Ⅱ)～エピソード記録型実習日誌の効用と課題～」北陸学院短期大学紀要 39. Pp45-58。
- iv 猿田興子「保育科短大における実習指導について～教育実習における日誌記述についての考察その2～」聖園学園短期大学研究紀要 38. Pp49-60。

## 参考文献

---

- ・河邊貴子・鈴木隆編著(2006)『保育・教育実習フィールドで学ぼう』同文書院
- ・玉置哲淳・島田ミチコ監修(2010)『幼稚園教育実習』建帛社
- ・民秋言・安藤和彦・米谷光弘・中西利恵(2009)『保育所実習』北大路書房
- ・寺田清美・渡邊鴨子(2007)『保育実習まるごとガイド』小学館
- ・東京家政大学(2010)『教育・保育実習のデザイン』研究会編『教育・保育実習のデザイン』萌文書林
- ・厚生労働省「保育所保育指針」2008年度改訂版
- ・文部科学省「幼稚園教育要領」2008年度改訂版
- ・百瀬ユカリ著(2009)『よくわかる幼稚園実習』創成社
- ・百瀬ユカリ著(2010)『よくわかる保育所実習第3版』創成社